

大阪市立矢田西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面では、学校の落ち着きとともに、基礎・基本の定着を図る取組を継続してきたことにより、経年調査等においては、徐々に効果が表れつつある学年もある。しかしながら、まだまだ基礎・基本の定着が不十分な児童も見られる。全国学力・学習状況調査においては、論理的思考力が問われる記述式の問題等で課題が見られるため、4分位相区分4に属する児童の割合が少なくない。家庭学習の習慣化にも課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、児童の実態に沿ったきめ細やかな指導を継続させていく必要がある。また、児童に基本的生活習慣を定着させるとともに、規範意識をしつかりもたせ、児童の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図る必要がある。

中期目標**【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **70%以上**にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和7年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和4年度からの **4年間で4ポイント増加**させる。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **40%以上**にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も、**前年度より0.5ポイント向上**させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **40%以上**にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **75%以上**にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、**40%以上**にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の **55%以上**にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を **95%以上**にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、**80%以上**にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.7%以上**にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。
- 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **91%以上**にする。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **56.6%以上**にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1ポイント**向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **71%以上**にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **73%以上**にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.7%以上**にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の **50%以上**にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を **90%以上**にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、**76%以上**にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立矢田西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83.7%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。</p> <p>○年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 91%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(いじめへの対応)	A
指標:令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83.7%以上 にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(不登校への対応)	B
指標:年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(人権を尊重する教育の推進)	A
指標:年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 91%以上 にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容

◆…課題

☆…次年度への改善策

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（いじめへの対応）

指標：令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.7%以上**にする。

結果：88.6%（3～6年の平均）

◎・各学年・学級で普段の生活、学級活動、道徳など定期的に「いじめ」について全体で考える時間を設けた。また、学校として「いじめは許されることではない」という考えを「いじめについて考える日」や「いじめアンケート」で示し、児童にも意識付けができた。

- ・些細なけんかやトラブルにもその都度、双方の話を聞き、必要があれば保護者に連絡するなど、丁寧な対応を心掛け、早期発見・対応ができた。

◆・いじめではないが、児童同士言い争う場面がしばしばある。

- ・きつい言葉や汚い言葉が聞こえてくることがあり、トラブルのもとになりそうな事は多い。
- ・放課後のトラブルが多く、学校での解決を求められる。
- ・指標をあげてもよい。（85%以上）

☆・家庭への働きかけ、保護者への意識の改善が必要。

- ・今まで以上に教職員のアンテナをひろげ、繰り返し「いじめ」について校内の意識を高めていく。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（不登校への対応）

指標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

結果：2023年度 0.02307%→2024年度 0.02325%

◎・教職員で協力して不登校児童の対応ができています。

- ・登校渋りの児童に対して、同担、地担を中心に動ける教職員が電話連絡や家庭訪問に行くことで、欠席してしまう児童も遅れてでも登校できている。また、保護者への意識の改善にもつながっている。
- ・学年・学級で動くのではなく、生活指導支援員、スクールカウンセラー、行政とも連携をはかり、登校改善に努めた結果、登校回数も増えた。
- ・休み時間をしっかりと確保し、児童の気分転換や心のゆとりをもたせる時間をつくった。

◆・不登校が改善されない児童が数名いる。

- ・教室に入りづらかったり、登校を渋ったりする児童もいる。
- ・担任が動きたいときに、教室が手薄になる。
- ・子供が頑張ろうとしているときに、保護者の一押しが欲しくても、もらえないことがある。
- ・児童が登校する前に保護者が外出してしまったり、保護者と連絡が取れなかったりと、こちらが積極的に動けないことがある。

☆・教職員間の連携や情報共有を密に行う。

- ・保護者との連携が難しかったり、学校・家庭だけでは改善が見られなかったりする場合は、行政や関係機関と連携を図り進めていく。

- ・登校渋りや教室に入れない児童に対して、「これやったら学校に行ってもいいかな」という校内での居場所づくり

などの環境も整えていく。

- ・不登校・登校渋りの児童に対して、担任が「なんとかしなくては」という気持ちは絶対に必要である。しかし、他の学級の児童や授業もあるため、物理的に無理があるし、時間に押され、逆に児童に焦りが伝わり悪い結果につながるが多く感じる。だからこそ、学校内で、より不登校児童への対応に対しての連携であったり、マニュアルを作成したりすることで、若い教員も頼みやすく、児童、学校ともに最善な環境を作れるようにする。

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（人権を尊重する教育の推進）

指標：年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **91%以上**にする。

結果：99%

◎・全学年が年間を通して道徳科や総合的な学習の時間等を活用し、人権デーや平和学習などの人権教育に取り組み、人権を尊重する心と態度や平和な社会の実現に向けて、ひとりひとりが考えることができた。

- ・1学期に各学年1時間以上の平和学習に取り組んだり、夏季休業中ではあるが8月6日に合わせて平和登校日を設定したりと全学年で平和学習を行うことで、反戦・平和への思いが高まった。

- ・「いじめについて考える日」に合わせて、学校全体でいじめは許されないことであることを再認識できた。

◆・感情的に相手に怒りをぶつけたり、ふざけあったりする場面で、周りの人の心を傷つけかねない言葉を聞くことがある。

- ・放課後の遊びやゲームの中では、暴力的な言葉が増える傾向にある。

- ・夏休み中ということもあり、平和登校日の参加率が低かった。また、8月1週目は暑さがかなり厳しく、登下校の時間だけでも児童の体調が心配である。

☆・日々の生活の中で、周りの人の心を傷つけかねない言動に対して、適宜声かけや指導を行い、相手を思いやる心や言葉の重みについて理解できるようにする。また、児童だけでなく保護者も含めて啓発を行いたい。

- ・8月6日の平和登校日は、2025年度から1学期中に行う予定。（矢田7校の取り組みなので校長会での決定を待つ）

大阪市立矢田西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56.6%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74.7%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56.6%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>（言語活動・理数教育の充実）</p> <p>指標：小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1ポイント向上させる。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>（理科教育の強化）</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>（英語教育の強化）</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。</p>	B

<p>取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	A
<p>指標：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 74.7%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

◎…成果・取組内容 ◆…課題 ☆…次年度への改善策

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

（「主体的・対話的で深い学び」の推進）

指標：小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 56.6% 以上にする。

結果：45.9%

◎・各教科でペア交流から全体交流の流れを取り入れることで、交流の仕方が定着し、自分の考えを深められている児童は多い。

- ・話し合い活動を授業に取り入れることで、課題解決につながったり、自分の意見に自信をもてたりする児童が増えた。

- ・子どもが主体的に学べるように導入を工夫することで、主体的に学ぼうとする子が増えた。

◆・話し合い活動は、個人差が大きい。

- ・自分の考えを伝えるだけで、深まっていない児童もいる。

- ・学力の2極化。

☆・今後も様々な授業の中で子どもが主体的に学び、対話することで、自分の考えを深めたり広げたりする活動の場をつくりながら、学力や学習意欲のさらなる向上を図っていく。

- ・考えを深め、つなげていくための手立てを検討する。→例えば、「つなぎ言葉」の導入や「話型」をつくる、身近な場面を想定した会話を広げる練習など。

- ・学力向上のため、来年度からドリルタイムを実施する。

取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（言語活動・理数教育の充実）

指標：小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント 向上させる。

結果：3年× 4年○ 5年× 6年○

◎・ICT 機器の活用や主体的な学びにつながる手立てを取り入れることで、意欲的に学習に取り組める児童が増えた。

- ・習熟度別・少人数学習やT2による入り込み指導を行い、個に応じた学習に取り組んだことで主体的に学習に取り組む児童や自力解決ができる児童が増えた。

- ・調べ学習やノートのまとめをする学習を取り入れることで主体的に取り組む、学びを深めることができた。

- ・学習の定着が難しい児童や欠席が続いた児童に対して、学級担任や特別支援担当、習熟度担当が協力して休み時間や放課後にフォローすることで学習の定着につながった。

◆・意欲的に取り組む児童もいる一方、基礎学力の定着ができていない児童も多い。

- ・低学年から学習の定着の差が大きい。

- ・既習の内容がきちんと定着していない児童は、他の単元で活用することが難しく、新しい学習課題を解くことへのハードルが高い。

- ・長い文章に対する苦手意識が強く、問題文の読み取りができない児童が多い。また国語の初見の文章に弱く、経年調査が難しいと感じている児童が多い。

- ・学習用具が揃っておらず、学習に取り組む環境が整っていないことがある。

- ☆・プリントやタブレットを活用し、次の単元につながる既習の学習内容を復習し、次の単元に臨むようにする。
- ・活字への苦手意識を減らすため、読書タイムや図書の時間等で漫画や図鑑ではなく活字の本を読む機会を作る。
- ・学習用具は忘れた児童や用意できない児童に貸し出ししているが、各家庭で用意してもらえるように保護者にも啓発していく。
- ・業務を減らし、指導力向上のため教材研究や研修を受ける時間を十分に確保する。

取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科教育の強化)

指標：小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **71%以上** にする。

結果：79.2%(3年～6年の平均)

- ◎・ICT 機器や実験、観察を取り入れることで理科に興味を持つ児童が増えてきた。
- ・実験や体験活動などを通して、座学だけでは学べない内容に取り組むことができ、学習に対する意欲が高めることができた。
- ・学習に関するものを見たり触ったりと実際に体験することができるため興味関心が高まることができた。
- ・地域との関わりの中で野菜作りや稲作をさせてもらい自然に対する興味関心を持つ児童が多い。

- ◆・主体的、対話的に学習を進める難しさ。
- ・理科に苦手意識をもっている児童もいる。
- ・理科、生活科の学習とふだんの生活場面でも関連づけることができるとよい。
- ・単元ごとに特色があり、学びの楽しさがある一方、知識が定着しないとしばらく復習の機会がないため点数につながりにくい。
- ・環境整備の充実(園芸の植木鉢の大きさなど)

- ☆・研修に行くなどの自己研鑽を積んでいく。
- ・理科の楽しさに触れる機会を増やしていく。
- ・校内の掲示板や朝会等を通して、理科や生活科に触れさせていく。
- ・前の単元の復習や学年をさかのぼっての復習や長期休みだけでなく、ふだんの宿題に出していく。

取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語教育の強化)

指標：小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **73%以上** にする。

結果：74.9%(3年～6年の平均)

- ◎・視聴覚教材(DREAM、絵本、CD、DVD等)を活用し、全学年で週2回のモジュール学習を行うことで、日常的に英語に親しむことができた。
- ・モジュール学習や外国語活動・外国語科の学習では、指導の工夫をすることで、たくさんの児童が意欲的に取り組むことができた。
- ・年間計画(3年生以上)に基づき、C-NET と協力して楽しい活動を設定することで充実した外国語・外国語活

動の授業に取り組めた。

- ・学年が上がるにつれてより専門的な知識が必要になってくるので、中学校から英語専科の教員が来てもらえることで学力の向上につながった。
- ・高学年では、「聞くこと」や「話すこと」を中心に取り組むことに加えて、「書く」力を伸ばすことにも取り組んだ。

- ◆・学年が上がるにつれ、習熟の差がかなり開いている。特に、高学年では C-NET や教師の言葉を聞き取れなかったり、英語での発言が恥ずかしいと感じたりと苦手意識が強い児童が多い。
- ・アクティビティなどの活動的な学習は、ほとんどの児童が肯定的に取り組めるが、テストや英語を「書く」活動では苦手意識をもつ児童も多い。

- ☆・モジュールの時間には、DREAM 以外の教材(フラッシュカード、チャンツ、絵本)を使い、さまざまな英語の活動を取り入れていく。
- ・モジュールの時間を活用し、中学年から「書く」活動にもチャレンジする
- ・個に応じた学習ができるようにナビマなどのデジタル学習教材も活用していく。
- ・指導法の共有や研修を受けられる時間を確保し、指導力の向上に努める。

取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(体力・運動能力向上のための取組の推進)

指標：小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.7%以上**にする。

結果：80.3%(3年～6年の平均)

- ◎・運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が学校全体で 80.3%になった。
- ・児童が楽しくなるように工夫された体育科の学習に取り組んだ。
- ・オリックスバッファローズ、セレッソ大阪などの夢授業を行った。
- ・ランニング集会やなわとび集会等の体育科に関する学校行事を実施することで様々な領域に年間を通して、運動することができた。また、各集会でがんばりカードを活用したことで、目標に向かって運動する児童を増やした。
- ・運動会、ランニング記録会の大きな行事において負傷が少なかった。
- ・日々の遊びに竹馬や逆上がり台などの環境整備を行い、遊びのバリエーションを増やした。
- ◆・休み時間、体育の時間での負傷が多い。
- ・体育を頻繁に見学したり、運動が苦手な児童への対応。
- ・運動が好きでない児童が一定数いる。
- ・竹馬や一輪車などの消耗品の老朽化。
- ☆・授業の課題をスモールステップに設定し、苦手な児童も身体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。
- ・負傷しないため体育科の学習でけがをしないために体幹を意識したトレーニングを行う。
- ・竹馬や一輪車などの環境整備を行う。

大阪市立矢田西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑨【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】 （ICTを活用した教育の推進）</p> <p>指標：授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）</p>	C
<p>取組内容⑩【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 （働き方改革の推進）</p> <p>指標：年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑪【基本的な方向8 生涯学習の支援】（学校図書館の活性化）</p> <p>指標：令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
◎…成果・取組内容 ◆…課題 ☆…次年度への改善策

取組内容⑨【基本的な方向6 教育D X（デジタルトランスフォーメーション）】

（ICTを活用した教育の推進）

指標：指標：授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）
結果：31.4%（4月～1月）

◎・心の天気をはじめ、デジタルドリルや SKYMENU、Kahoot!など、幅広い場面で学習者用端末を活用できた。

- ・調べ学習や発表に活用する機会も増えた。
- ・操作方法についてはよく身についている。

◆・経年劣化などによる不具合や故障が多く、使えない場面もあった。

- ・学習者用端末を使用することが目的になっている。
- ・心の天気など、まだまだ声掛けをしないと入力しない児童も多い。
- ・担任や教科担当の先生によって、活用する頻度に大きく差が見られる。
- ・デスクトップ画面を勝手に変えたり、休み時間にゲームをしたりしており、使い方の共通理解が徹底されていない。

☆・不具合や故障には、すぐに対応し声掛けを行っていく。

- ・タブレットの使用制限を広くする。
- ・低学年でも、写真の提出などできることから継続して取り組んでいく。
- ・指標の計算を、欠席児童を含まないようにする。
- ・端末の使い方について、改めて確認する。
- ・学年に応じた活用目標を設定し、達成を図る。

取組内容⑩【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（働き方改革の推進）

指標：年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

結果：100%

◎・学校閉庁日も含めて10日以上有給を取得することができた。

- ・働き方改革の点でいえばスクールサポートスタッフの補助はとても大きい。
- ・休暇は取りやすい職場環境になっている。
- ・教科担任制を取り入れていたことで業務量が分散されてきている。
- ・年次有給休暇を10日以上つかうことができた。
- ・閉庁日が多く、有給を取得しやすかった。
- ・年休取得について、柔軟に対応してくれる職場環境が整っている。

◆・休み時間に児童と接することが難しい。理由は業務が多いため。

- ・行事等の精査はしているものの、まだ担任に仕事が偏っている。
- ・長期休暇以外は中々休みを取ることが難しい。
- ・遅くまで残業している先生も多い。学年だけでなく、校務分掌の仕事の見直しが必要。
- ・学校閉庁日は年間何日かを前もって知っていると年次休暇がとりやすい。

☆・業務を減らしていく。

- ・校務分掌の分担を見直す。
- ・担任のもつ仕事量を減らす。
- ・部会ごとでも業務の共有や報告・相談ができるようにする。

取組内容⑪【基本的な方向 8 生涯学習の支援】（学校図書館の活性化）

指標：指標：令和 6 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76%以上にする。

結果：75.2%（3年～6年の平均）

◎・新刊フェアや読書ビンゴなど様々な取り組みをすることで、たくさんの本に触れる機会をもてた。

- ・週1回の図書の時間や金曜日の読書タイムを実施した。
（読書タイムに図書委員による1年生への読み聞かせ）
- ・図書の時間以外にも、すき間時間に読書する時間を十分に取れた。

◆・図書室が遠いため、イベントや呼びかけがないと授業時間以外に来室する児童数が増えない。

- ・保護者アンケートの結果が低いことから、学校では読書をしていても家で読書をしない児童が多いと考えられる。
- ・漢字を読むことに苦手意識があったり、読みたい本の見つけ方が分からなかったりする児童もいるため、主体的に本を読むことが難しい。
- ・低学年図書室の利用頻度が少ない。

☆・低学年図書室を活用する。

（本の内容の見直しやイベントなど）

- ・読み聞かせの機会を増やしたり、楽しい本を紹介したりする。
- ・学級文庫の見直し。（中・高学年にも、やさしめの本や読みやすい本を用意する）
- ・学年の実態に応じて、読書通帳（読んだ本や本の冊数を記録できるもの）を活用する。
- ・調べ学習や発展的学習などで、本を活用する機会を増やす。

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西小学校 学校協議会

1 総括についての評価

○学校が一丸となって取り組み、子どもたちを大切に育んでいることがよく伝わってきた。
○様々な問題を教職員や管理職が連携して取り組めており、問題改善につながっていると感
じる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

○令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないこ
とだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **83.7%
以上**にする。
○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
※不登校状態であっても、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把
握する。
○年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるため
の学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を **91%以上**にす
る。
・いじめや不登校の対応や改善は、難しい問題ではあるが、教職員が一丸となって対応にあたっ
てほしい。

年度目標：【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め
たり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童
の割合を **56.6%以上**にする。
○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において
経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.1 ポイント**向上させる。
○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の
割合を **71%以上**にする。
○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答
する児童の割合を **73%以上**にする。
○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きで
すか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を **74.7%以上**にする。
・学校は十分に努力してくれているが、目標に達していない学年もあるため、地域としてはさら
なる学力、体力の向上を期待する。
・基礎学力の定着にも力をいれてもらいたい。

年度目標：【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

○令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76%以上にする。

- ・働き方改革の意図は理解しているが、教職員の地域行事への参画が地域活性化につながると考えている。
- ・大阪市としての話になるが、教職員採用の人数をもっと増やせるような工夫が必要だと感じる。

3 今後の学校園の運営についての意見

○今後とも地域と密着した運営をお願いしたい。

○小学校と中学校とで、さらに連携を深めて取組や実践を行ってほしい。

○様々な課題はあるが、今後も教職員一丸となって取り組んでもらいたい。